

雌雄同体のカツオ

令和2年6月29日、当試験場の職員が、県内の鮮魚店が投稿したツイッターに、珍しいカツオの生殖腺の写真を見つけました。

写真を見ると、精巣の一部が卵巣になっている生殖腺で、投稿した中土佐町の(有)多田水産様に問い合わせたところ、見つけたのは、久礼(中土佐町)の小型一本釣船が水揚げした3kg前後のカツオで、毎日カツオを捌いているが、こんな生殖腺は初めて見たとのことでした。

さらに、水揚げのあった久礼漁業協同組合に確認すると、直近の小型一本釣船の漁場は室戸岬沖の浮き魚礁とのことで、珍しい生殖腺を持ったカツオもこの付近で漁獲されたと考えられます。



【写真1】見つけたカツオ生殖腺

生殖腺を試験場に持ち帰り観察すると、精巣の片側の途中から卵巣になっており、その境界は明瞭ですが、外膜は連続しており強く引っ張っても離れませんでした。

国内でカツオの生態や資源について専門に研究している国立研究開発法人水産研究・教育機構 国際水研資源研究所かつおグループに、情報提供したところ、2018年の *Journal of Fish Biology* という英語の論文で報告例があり、それによると、2014～2016年に石垣島周辺海域などで採集された3個体のカツオから卵巣と精巣が一緒になった生殖腺が確認されています。

それ以前にも、英語の論文を中心にいくつか報告例があるようです。また、当試験場の職員の中にも、以前にカツオを担当していた職員から、同じような

事例を聞いた記憶があるとのことで、このような雌雄同体の個体は、ごくまれに出現すると思われます。

高知県民にとって最もなじみ深い魚であり、県の魚にも指定されているカツオですが、産卵や回遊ルートなどまだまだ不明な点が多い魚です。

当試験場では、引き続きカツオの基礎的な生態や資源状況の解明に貢献できるよう調査研究に努めていきます。

令和2年7月9日

漁業資源課 山下



【写真2】精巣と卵巣の境界部分①



【写真3】精巣と卵巣の境界部分②

*写真の生殖腺は(有)多田水産様のご厚意により提供いただいたものです。貴重なサンプルを提供いただきありがとうございました。

<参考文献>

Hiroshi Ashida・Shinpei Ohashi・Masachika Masujima・Masaaki Nakano・Tamaki Shimose (2018): Evidence of spawning by hermaphroditic skipjack tuna *Katsuwonus pelamis*, *Journal of Fish Biology*, 93, 1233-1237